

(長岡京市) 自分ごと化会議 in 長岡京 第3回議事メモ

分科会	第1分科会(環境保全)
コーディネーター	伊藤 伸 永由 裕大
ナビゲーター	なし
説明担当者(自治体)	環境政策室 山口
日時	2021年 6月27日(日) 13時30分から 16時
場所	長岡京市役所 大会議室A
その他	参加者数 <u>15名</u> 欠席者数 <u>12名</u>

総括

コーディネーター総括

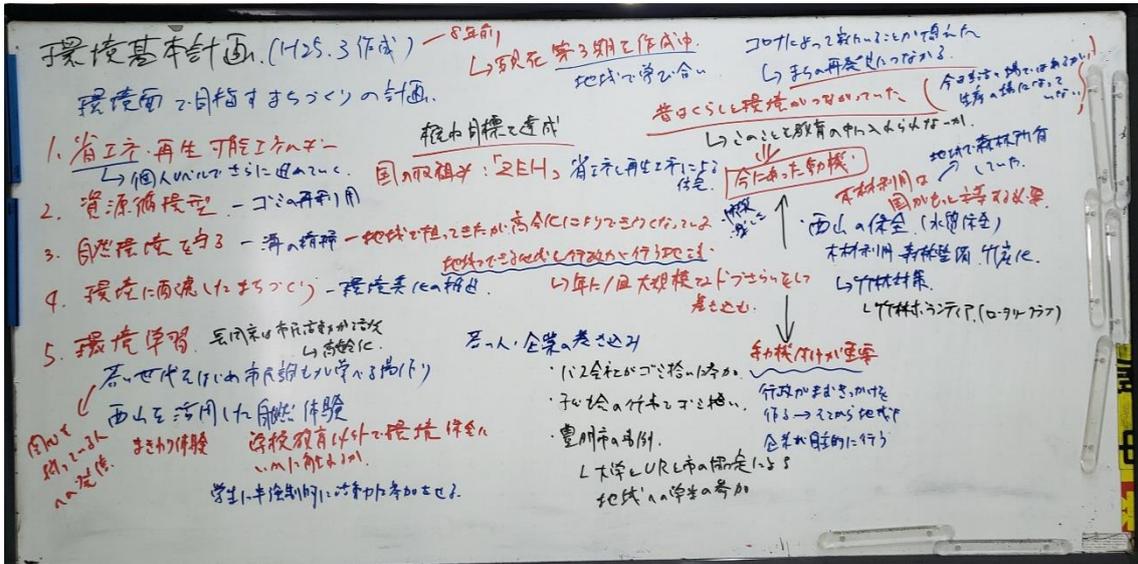
- 市の環境基本計画は環境面で目指すまちづくりの計画。木材利用の話も出た。西山の保全と竹林の関係。西山森林整備協議会が取り組みをされている。国は国産木材の利用促進を掲げているが、具体策がない状況。林業の担い手が減ってきている。自然環境を守る地域の視点。高齢化によって活動ができなくなっている。行政との役割分担など。
- 市外で仕事をして長岡京市に戻ってくるなど、様々なライフスタイルがある。その中で共同体の範囲や在り方も変わってきているのではないか。昔は暮らしと環境が繋がっていたというお話と、生活と生産がセットであったというお話は共通している。暮らししていくためには地域で山や水源を管理していく必要があった。環境が自分の暮らしや生産・生活に関わるから参加した方がいい、という動機付けを現代に合わせたものにできるかどうか。

主な論点

論点① 長岡京市第2期環境基本計画について

論点② 地域活動参加への動機・きっかけづくりについて

ホワイトボードの写真



協議の流れ

① 長岡京市第2期環境基本計画について

コ) 今回は全5回のうちの3回目。今回が初参加の方もおられるので、会議の趣旨や目的を振り返りたい。市民と行政との協働、連携のあり方がどうなっていけば、まちづくりがうまくいくのかということを考える会議。これまで地域で活動されてきた自治会等の関係者の方々と、無作為に選出された市民の皆さんに参加していただいております、多様な市民の声を反映させる会議になっている。この班では環境保全に対する現状や課題を出していただき、まとめたものを条例検討委員会に提案する。行政と市民の連携のありかたに、どういった課題があるのかをまとめていきたい。まずは本日初参加の方から自己紹介を。

委) 普段は地元の金融機関に勤めている。仕事では「地域のために」ということを意識しており、生まれ育った長岡京市のために役立てることがあればと思い参加した。

コ) 今日は皆さんから提出いただいた改善提案シートの内容を紹介した後、市役所環境政策室から市の環境施策について話してもらい、議論を深めていきたい。前回は「協働」について市から説明していただいた。具体例としては市民の緑化活動を行政がサポートする「みどりのサポーター制度」。市内の半分以上の公園を整備されているとのこと。また市内の自治会の概要についても説明いただいた。高齢化により、加入率が年々下がっている。既存のメンバーが楽しめる施策や、子どもや若い世代が参加できるようなお祭りで未加入者を巻き込むことが必要なのでは、といった意見が出された。一方で自治会がない地域に住まれている方もおられ、時代と市民のライフスタイルが変わ

委) : 委員、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

っている中で、そもそもの自治会の役割を考える必要があるという話があった。行政から説明があったが、災害時に自治会の存在が重要となる。非常時に役立つ地域の関係性を平時からどう作っていくかが大切。またごみステーションについても議論を行った。指定ごみ袋制度の導入当初は指定ごみ袋以外での排出が見られたが、徐々に減っていったという話があった。ごみステーション利用のマナーについてはまだまだ課題があり、原則は当日の朝に出さなければならないが、ライフスタイルが多様化し、前日の夜に出している人が一定数いるということも分かった。長岡京市ではごみステーションの管理は地域の方が担っている。朝に当番で立たれている方に見られるのが嫌で、夜間にごみを出すという人も。マナーやルールを一律で決めるのではなく、地域の実情に合わせて変えていくことが必要という意見があった。前回までにいただいた改善提案シートをとりまとめたものをお配りしている。また今回より改善提案シートの様式を一部変更している。それぞれの課題に対して、個人・地域・行政・その他(民間等)の課題をそれぞれ記入できるようにし、コメント欄を追加した。それぞれの主体の課題をしっかりと抽出したものを条例検討委員会に出すために修正を行った。前回、中長期的に環境のことを考えると、教育の観点から考えなければいけないというご意見があった。このあと環境政策室から市の環境基本計画について説明をいただいた後、環境教育という観点で議論をしていきたい。

市) 前回は協働やごみステーション、環境美化や環境教育の話題が出たと聞いている。それらのことが長岡京市第2期環境基本計画においてどのように扱われているのかについて説明させていただく。環境基本計画は簡単に言うと環境面でこんなまちを目指します、そのためにこんな取組をします、ということを示したもの。環境といっても範囲が広いので、施策を5つにカテゴリー分けしている。「1.エネルギーを大切にすまちづくり」は温暖化対策のこと、「2.資源循環型社会の形成」はごみ問題のこと、「3.自然環境の保全」は生き物や自然を大切にすること、「4.快適な都市環境づくり」はまちのハード整備のこと、「5.協働・環境学習・エコアクションの推進」は1~4を推進するために必要な協働や環境学習のこと。この5つが環境基本計画の大きな柱となっている。前回の会議で出たものと関係が深いのは環境教育と環境美化の部分かと思うので紹介したい。「2.資源循環型社会の形成」の「(1)廃棄物の発生抑制・再生利用の推進」について計画の本編には「家庭向けにごみの出し方やごみ減量の取り組みを掲載したパンフレットを作成し、ごみ減量の啓発活動を進めます。」とある。これは市の責務。一方で、「地域密着型で廃棄物の減量化・再資源化の推進や啓発を行う、廃棄物減量等推進委員の活動を支援します。」とある。自治会長の皆さんに、地域のごみ減量のリーダーである廃棄物減量等推進委員を推薦いただいております、委員にごみ減量についての説明会を開催している。地域のなかで委員を中心にごみ減量を広げてもらいたいということも書かれている。「(2)資源回収の推進」は、まさにごみステーションのこと。「分別ステーションによる効率的な資源ごみ等の回収を進めるとともに、ステーションの適切な維持管理を図り、適正排出の推進に努める。」と記載がある。ステーションの維

持管理については、「誰が」「どんな手法で」といった細かいことは書かれていない。管理の実態については前回担当課から説明があったと思うが、自治会にお願いしているところや、自治会のない地域でマナーが守られていないところはシルバー人材センターにお願いをしている。また「市民が主体となった古紙等資源リサイクル活動を支援します。」とある。子ども会を中心に地域で古紙や古布を回収いただいております、回収量に応じて活動資金を助成している。環境美化については「4.快適な都市環境づくり」の「(4)環境美化の推進」に「まちを美しく保つために啓発活動を行います。」とある。これは市の責務。また「ごみが散乱している状況を自らの問題として考え、ポイ捨てがないよう地域の散乱ごみを自らの手で清掃するごみゼロ運動の実践を促進するとともに、地域での清掃活動の支援を行います。」とある。自治会を中心に市民の皆さんにごみゼロ運動を実施していただいている。こういった役割分担がある。環境教育では「5.協働・環境学習・エコアクションの推進」の「(3)環境学習の推進」に「次世代を担う若い世代をはじめ、市民の誰もが環境について学ぶことができるよう、西山をフィールドにした環境学習など、多様な学習の機会を提供します。そのために市民や団体、事業者と連携します。」とある。市内の環境団体と市と一緒に、小学生の親子を対象にした自然体験学習を行ったり、西山を学校の遠足に活用していただいている。これまでご紹介してきた第2期環境基本計画は今年度で計画期間が終了となり、令和4年度から第3期環境基本計画となる。現在策定作業中。啓発のやり方について、行政から市民への啓発はもちろんだが、市民から市民への啓発の機運を高めていきたいと考えている。環境問題はまさに自分ごと。計画の進捗管理については、評価指標を設定しており、計画策定時から数値はおおむね改善している。環境基本計画は行政と市民の皆さんと一緒に推進していくもの。

- コ) 長岡京市特有の環境面での課題はあるのか。
- 市) 注目されている環境問題は温暖化。長岡京市の指標は順調に改善しているが、脱炭素に向けての取り組みがまだ足りていない。
- コ) 第3期環境基本計画の策定にあたっては、どういった議論があったのか。
- 市) 環境問題は、究極的には一人ひとりの心がけ。行政がすべきことはもちろんあるが、それだけでなく自分ごととして考えていただくことが必要。
- 委) 欧米には築150~200年の木造建築がたくさんある。うぐいす台に住んでいるが、30~40年したらみんな家を潰してしまう。国や自治体が木材資源の有効活用を促進するために、そういった家を建てた場合の補助金などの施策が必要だと思う。
- 市) 耐久性という観点では、議論は盛り上がっていないのではないと思う。省エネ住宅への補助は国や市でも補助制度がある。協働の視点で、長岡京市と事業者が連携してエコ建築を進めていくことは可能だと思う。
- コ) 断熱性能を高めることでできるだけエネルギーを使わず、かつ再生可能エネルギーを使用する住宅に対しては、国でかなり大きな額の補助金を出している。
- コ) 各家庭のエコや省エネを促進するための事業を市では行っているのか。

(様式3)

- 市) 令和3年度から、「COOL CHOICE 実践補助金」が始まった。薪ストーブの設置、住宅窓の断熱改修工事、補助太陽光発電設備と蓄電設備の同時設置、電気自動車の購入に対しての補助金となっている。
- 委) 溝掃除について、地域で高齢化が進み重たい溝蓋を開けることができない。溝掃除について、市としてどういう方向性を持っているのか教えてほしい。
- 市) 担当課ではないので詳細はお答えできないが、下水道などのハード整備によって、溝にごみが溜まりにくくなってきているということは聞いているが、完全に溝掃除が不要になったわけではない。地域によって実情も異なり、誰が担っていくのかは課題だと思う。
- 委) 溝掃除はやめたいという声が上がっている。自治会員も減っており、連携が困難になってきている。
- コ) 他市の例では、年に一回クリーンデイを設けて、市職員や地域住民などあらゆる人が総出で清掃を行っている。
- 委) 自治会がない地域は、溝掃除や草むしり等の働きかけを行う主体がない。
- 委) 西山で、植えてから50~60年経った杉を持ち出す道が整備されていない。昔はそれぞれの地域に製材所があり、山の杉を使って家を建てたが、現在は海外の木材が使われ、国内の木材が使われていない。また西山の広葉樹を竹が侵食してしまっている。市として検討していく必要があるのではないか。
- コ) 今まで誰が主体となり西山を整備してきたのか。
- 市) 林業が盛んだった時代は個人が山に入られて管理をされ、地域の家にも利用されるという循環が生まれていたが、現在では管理ができずに竹が侵食している状況。長岡京市では行政だけでなく、土地所有者や森林ボランティア、企業や大学など様々な主体で構成される西山森林整備推進協議会という団体を作り、整備を行っている。
- コ) 長岡京市の林業を盛り上げていこうということなのか。
- 市) 産業として盛り上げていこうということはなかなか難しいと思う。
- 委) 昔は芯がない木材が強度があり使われていたが、現在は芯がある木材を接着したものでも鉄並みの強度があるらしい。
- コ) 現在の環境基本計画では長岡京市産の木材の利用までは記載しておらず、あくまで森林の整備ということか。
- 市) 森林の整備と、長岡京市産材の公共建築物への利用について記載している。
- 委) ごみについて、長岡京市のアプリを利用したらいいのではないか。資源の再利用ができるように。
- 委) 西山について、竹が侵食しないような施策はしなかったのか。雑木林が残っているのは光明寺の周辺だけになってしまった。杉は戦後に青年団が将来売るために植えたもの。外国産材でなく国産材を有効に使っていくのなら、長岡京市の問題だけでなく、国単位で施策を考えていかないといけない。
- コ) 環境保全に関与する人や団体を維持することが、時代の変化とともに難しくなってきた

委)：委員、コ)：コーディネーター、ナ)：ナビゲーター、市)：説明担当者

ているのではないかと感じた。どうやって新しい人に関わってもらおうか。

- コ) 前半の振り返りを。市の環境基本計画は環境面で目指すまちづくりの計画。木材利用の話も出た。西山の保全と竹林の関係。西山森林整備協議会が取り組みをされている。国は国産木材の利用促進を掲げているが、具体策がない状況。林業の担い手が減ってきている。自然環境を守る地域の視点。高齢化によって活動ができなくなっている。行政との役割分担など。

～ 休憩 ～

② 地域活動参加への動機・きっかけづくりについて

- 委) 長岡京市は大企業もたくさんあるので、企業の方に協力してもらうのはいいことだと思った。どの企業も地域をよくするための取り組みはしているはず。私も仕事の関係で鴨川の清掃や祇園祭りのごみ拾いに参加したことがあるので、企業を使うというのも一つの手段かと思う。また、市内の中学生や高校生に、授業の一環として参加してもらうのはどうか。
- 委) 市内の小中学校に通っていたがそういった活動に参加した記憶がない。高校は市外だったが、乙訓高校の生徒がごみ拾いをしているのは見たことがある。地域でのごみ拾いが2年ほど前にあったが、それ以来ない。
- 委) 第九小学校区に住んでいる。小畑川クリーン作戦には、地域の人と企業の方も参加している。帝産観光バスの社員の方に参加してもらっている。竹林の関係では、高齢化が進み竹林の管理が難しくなっているため、地主から竹林をお借りし、竹を伐採し針葉樹などを植える取り組みを10年近くやっている。ロータリークラブのメンバーで長岡京市の役に立てるものはないかを市に相談した際に竹林の話が出たので、竹林を森林に変えていく取り組みを始めた。
- 委) 小畑川クリーン作戦と市のごみゼロ運動には参加や周囲への声掛けをしている。イベントとしてその日は一生懸命清掃をするが、その後そういった活動を日頃から継続的に行っている方が増えているわけではないと思う。小畑川の普段の清掃は誰がやっているのかを市にお聞きしたい。
- 市) 小畑川の管理者は京都府になるので、京都府が草刈りと併せて清掃をされているのではないかと思う。
- コ) 他市の事例だが、愛知県豊明市と市内にある藤田医科大学とURで、大学の学生に、団地の高層階に住んでもらい、引っ越し代の補助や家具を用意するかわりに、町内会に必ず参加してもらおうという協定を結んだ。高齢者のごみ出しを学生が手伝ったり、自治会活動やごみ拾いに学生が参加するようになった。参加してもらうには、若い人にもインセンティブや動機付けが必要なのではないかと思う。
- 委) 地域の活動をできる人が協力してやっていける仕組みが必要だと思う。例えばその時は参加できなかったけど、別の形で環境保全に協力するなど。相互関係で協力ができ

る仕組みがあればいいなと思う。最初の動機付けやきっかけづくりを市がやると地域全体で動きやすいのではないかな。

- 市) 動機付けやきっかけづくり、情報提供や啓発は市の使命だと思う。こういった仕組みであれば皆さんに参加してもらえるのが難しい。
- コ) 市から企業へ呼びかけて活動に巻き込んでいるような事例はないのか。
- 市) 企業は個別に清掃活動をよくされている。サントリーは西山の地権者の方と協定を結び、森林整備をされている。村田製作所には若葉カップ全国小学生バドミントン大会で協賛していただいている。また市と市の商店街と環境団体で打ち水大作戦というイベントを実施した。
- コ) いろいろな活動がすでに市内で行われているが、市民への周知がまだ足りていない部分があるのかもしれない。また企業への巻き込みを行政がするのか、住民がするのかについても、議論が必要だと感じた。若者と企業の参画の促進などについてどうお考えか。
- 委) 福祉の啓発に関する仕事をしており、車いす駅伝を京丹波町で開催しており、地元の高校生に協力をお願いした。若い人は具体的な指示や役割分担を決めておくと積極的に動いてくれた。また、障がいのある方の就労促進では、民間企業に「こういったことに配慮してもらえれば働くことができる」と紹介し、働きはじめてからも困りごとがあればフォローしている。長岡京市でもそういったネットワークを3年ほど前につくり、中小企業を中心に障がい者雇用を促進している。一つの企業と繋がると、そこから別の企業に声をかけてもらえるのでどんどん輪が広がっていく。京都市内でも同様の取り組みをしており、京都市にも入ってもらっているが、行政はほかの仕事も多いのか、会議にもなかなか来てもらえない。環境問題に関しても学校に呼びかけるのがよいのでは。何をしてほしいのかを明確にして声をかけると広がっていくのではないかなと思う。
- コ) 教育機関に対してはどのようなアプローチをしているのか。
- 市) まず学校教育のカリキュラムに環境についての単元がある。また総合的な学習の時間で西山の薪割り体験などを実施している。学校にはいろいろなお願いをしているが、先生も忙しく受け入れの体制が整っていないことが課題。学校教育の場以外でも若い人に環境問題に関わってもらいたい。長岡京市は環境問題に取り組む市民団体は比較的多いが、担い手が高齢化しており、若い人がそういった団体にあまり入らない。団体と若い人を繋ぐことなどはやっていけないのではないかなと考えている。
- 委) 昔は環境と暮らしが結びついていたが、今はそれらが繋がっていない。この繋ぎ目をどうしていくのか。お金を払ってでも得たい感動や潤い、楽しさなどの仕掛けや仕組み、きっかけづくりを行政が作っていく必要がある。講座を開いて、そこから活動に繋げていくなど。
- 委) 現在大学4年生。個人的にはこういった会議や自治会活動に参加することに抵抗はないが、全体として見ると参加したいと思う人はあまりいないと思う。学生や若い人に

参加してもらいたいのであれば、学校に在籍している人に強制的に参加してもらったり方のほうが良いと思う。卒業したらそれっきりになってしまい、市民と行政が自発的に関わるといふ趣旨からは外れるが、そのほうが効率的ではないかと思う。

委) 協力したいと思っている方は潜在的にはかなりおられると思う。取り組みの発信が大事。地区内の公園の草刈りを役員だけでやっていたが、2年ほど前から参加協力を呼びかける回覧を回したら、かなりの方が手伝いに来てくれた。今年はコロナの関係で回覧を回さずに役員だけでやろうと思っていたが、気付いた人が手伝いに来てくれた。一方で強制すると拒否反応を示す方もおられると思う。

委) 今回のように若い人や企業の方が入るパートナーシップ会議のようなものがあればいいと思う。

委) 昔は共同体そのものが生産の場であったので、共同体のルールを守らなければ生きていけなかった。村というのはそういうもの。今の長岡京市は生産の場ではなく生活の場。災害があった時に避難を誘導するのは地域の人しかいない。市役所の人間は来ない。地域の力がなければ救えない。行政ではなく、なるべく共同体の中で問題を解決したり、助け合うことが大変重要。顔見知りではないと助け合うことはできない。そういった関係性を行政に頼るのではなく、私たちが作っていかなければいけない。私は分別指導員をしているが、私が立っているときはごみを出さずに、いなくなると一斉に出される。分別収集の看板やごみ減量のしおりだけではルールが徹底されない。共同体の力を強めていかないと解決できない。全体のルールを高めるためにはどうしたらいいのか、今後の共同体のあり方をどうしていったらよいかの大きな課題。

コ) 昔は暮らしと環境が繋がっていたというお話と、生活と生産がセットであったというお話は共通している。暮らしていくためには地域で山や水源を管理していく必要があった。環境が自分の暮らしや生産・生活に関わるから参加した方がいい、という動機付けを現代に合わせたものにできるかどうか。

コ) 市外で仕事をして長岡京市に戻ってくるなど、様々なライフスタイルがある。その中で共同体の範囲や在り方も変わってきているのではないか。地域活動に参加する動機付けや仕組み・きっかけについてアイデアやご意見はあるか。

委) 自治会に入っていないため情報が入っていない。参加する気はあるが気付いていないのが現状。近隣の広報板にそういったお知らせが貼ってあったが、最近あまり見かけない。

委) 各世代によって動機は様々だと思うが、長岡京市はいいところだと思いつつながら過ごしたいというのは皆さんに共通していると思う。例えば西山であれば子どもの遊び場があることや、観光できる場所があるということが活動をする動機になるかもしれない。自分だけでなく、自分の子どもや親が住みよく暮らしていくためにはどうしたらよいか、という動機があれば動くのではないかと思う。市民が動かないのに市や企業にやってくれ、というのではなく、市民ができることを考えたい。

コ) 動機付けについて、各世代や各所属先にどうアプローチして巻き込んでいくのか、次

回の会議で議論していきたいと思う。

次回の分科会に向けた準備

次回の分科会の進め方

- 活動参加の動機やきっかけづくりについて、議論を行う。